

学校だより

にしずえ

甲斐市立双葉東小学校

平成21年12月21日号

輝かしい『新』年に期待を込めて

2009年が終わろうとしています。1年間の振り返りの時期であり、今年の〇〇十大ニュースとかが巷の話題になっています。

そのような中で私は毎年注目しているニュースがあります。それは毎年12月中旬清水寺貫主がその年の世相を表す、漢字一文字の発表です。昨年は「変」でした。1年前にこの学校便りで平成21年は「安」にしたいと書かせていただきましたが、案の定個人的な期待を裏切り、今年の漢字は「新」でした。報道によると、さまざまな「新しいこと」に期待し、希望を抱いた1年であったということが理由のようです。具体的には、政権交代で新内閣が発足し、政策・行政が刷新、裁判员制度や高速道路料金割引制度などさまざまな新制度がスタートしたこと。また、アメリカ大リーグ・マリナーズのイチロー選手や水泳競技での新記録ラッシュ、そして、新型インフルエンザで新薬が登場したこと、などが理由にあげられていました。

双葉東小学校で「新」で連想するものは、残念ながら、4月から今日に至るまで翻弄されてきた新型インフルエンザです。

4月当初、山梨県に1人でも新型インフルエンザ感染者が出現すれば山梨県下学校閉鎖になるとか、甲斐市に出れば学校閉鎖になるとか、新型インフルエンザ対策本部から指示文書が出されていました。そのため修学旅行へは、本当に行けるのか心配の連続でした。マスク持参での修学旅行でしたが、本校はマスク着用なしの正常な姿での修学旅行を終えることが出来ました。安堵したものでした。対策本部が季節型のインフルエンザ対応にシフト変更してきたものの、9月に入り4日の日に本校では始めて新型インフルエンザ罹患児童が2名出ました。そして9月7日、ついに甲斐市初の学級閉鎖、翌日学校閉鎖をせざるを得ない中学校が出ました。本校との兄弟姉妹関係にある中学生も多数出て、濃厚接触者ということで出席停止の指示も出されました。時は運動会の取り組み真っ最中で、9月19日秋季大運動会に向かって各学年も必死の状況でした。毎日毎日養護教諭を先頭に、うがい、手洗い、消毒の徹底した取り組みも展開されました。その成果から



学年閉鎖されたさみしい教室・廊下

か、運動会は大成功裡に終了することが出来ました。本校を除き、9月から10月にかけては双葉地区の小中学校、敷島小中学校が、10月下旬までは竜王地区へ拡大し、それぞれの小中学校が、学校閉鎖、あるいは学年・学級閉鎖の措置がとられました。そんな中、本校だけは甲斐市で最大規模ながら、11月17日までは欠席罹患児童は一桁台を維持してきました。毎日毎日養護教諭が教育委員会に報告し、その日のうちに甲斐市16校の状況がわかるだけに、双葉東小学校の罹患患者数の少なさが注目的になりました。会議のたびに他校の校長先生方から「双葉東小学校は数をごまかしているんじゃないの」とか、「新型インフルエンザの防止方法を教えてください」とか言われていました。養護教諭を先頭に、各担任が、家庭との連携の中で予防対策を継続して取り組んできたことは事実でした。私は言われるたびに、双葉東小学校の職員集団と保護者の協力に感謝したもの

でした。しかしその胸中は『本校だけが特別なわけがない、いつかは世間並みにはなるだろう』でした。

悪い予感の的中するもので、本校にもその日が突然襲ってきました。11月の4連休明けの24日(火)でした。その日なんと全校65名の欠席があり、新型インフルエンザと判明した児童は39名になりました。病院に行っていない児童や、登校しているものの体調のすぐれない児童の症状を分析したところ、2年生の2クラスを学級閉鎖せざるを得なくなりました。ちなみに学級・学年・学校閉鎖をする場合学校長の判断だけでは実施できません、学校医・市教委と協議して決定になります。そしてついに11月25日に学級閉鎖が始まり、先週12月17日(木)まで全ての学年で学級あるいは学年閉鎖の措置がとられました。なぜか締めくくりは(願望!)6年生でした。この間、集会や合同授業、校外学習は取りやめました。児童の楽しみにしていた東の祭りや児童会選挙活動・投票も延期にしました。影響は大きいものがありました。授業について心配される保護者の方々もいらっしやると思います。現時点では学級・学年閉鎖措置をとっても標準授業時数を下回ることはありません。各学年、主任を中心に対策を講じ、補習や補充を行い進度の調整を行っています。どうか安心していただきたいと思います。それにしても、新型インフルエンザの予防接種も始まっていますが、なぜもっと早く出来なかったのかと思うのは私ばかりではないと思います。

まさに新型インフルエンザに翻弄された2学期でしたが、25日には終業式が行われます。安心安全の普通の状態が続く事が、如何に難しいことかを痛感させられました。しかし、保護者の皆様のご協力により、9月の運動会にしても、10月の文科省指定道徳公開研究会にしても見事に成功させることが出来ました。新型インフルエンザ対策も含め、学校への深いご理解ご協力に衷心より感謝いたします。

双葉東小学校にとって、21年度を象徴する文字「新」は新年に期待する『新』であります。そして、全ての家庭がすばらしい新年を迎えられることをお祈り申し上げます。

各教室に電子黒板導入！！

9月4日山梨日日新聞地域版記事「・・・補正予算案には、双葉東小の全クラス20クラスに電子黒板を整備する事業費1436万2千円を計上。同校が国の指定研究校に内定したのに伴い、委託事業として実施する。県教委によると、全クラスに電子黒板を導入するのは県内小中学校では始めて・・・」をお読みになった保護者の方々もいると思います。この電子黒板が12月15日に搬入され、2日ばかりで設定、パソコンへのソフトのインストール作業が行われました。これは、文部科学省の「電子黒板を活用した教育に関する調査研究」事業で、『電子黒板の特長を生かした学校での教育活用に関する調査研究を行うと共に、今後、環境に応じた周辺機器とのモデル活用例を示すことで、学校における電子黒板の普及・活用の促進を図る』を目的に全国公立小中学校130校が指定されたものです。5月中旬この話があり、手を上げさせていただいた結果、山梨県で双葉東小学校1校が指定されました。6月、昨年実施した超高速・高性能な新世代ネットワークを活用した遠隔授業を行ったことに対する、総務省関東総合通信局長表彰された



これが電子黒板です。



教室搬入前の電子黒板

影響があると感じています。それにしてもありがたいことです。電子黒板の良さは、タッチパネルでなかなか体験できないことを疑似体験することが出来、想像力を高めることが出来る。教室にいる全ての子どもの視線を一箇所に集中することが出来る。また、テレビ番組やパソコンの教材などを拡大して提示することが出来る。等があげられます。ちなみに今回本校で導入した電子黒板は地デジ対応にもなっています。今後研究を重ね、未来志向型授業の確立と、児童のますますの学習効果が高まるよう積極的に活用していきたいと考えています。

に活用していきたいと考えています。